園芸施設の雪害に対する技術対策について

令和７年１月９日
奈良県農業水産振興課

１）事前準備

・作付けしていないパイプハウスのフィルムは除去する。除去しない場合は、フィルムの破れ・隙間を補修し気密性を高めて保温し、雪の滑落を促す。
・イチゴ育苗ハウスのフィルムは除去する。
・寒冷紗等の遮光資材は、雪が滑り落ちにくくなるので、必ず除去しておく。
・フィルムがたわんでいたり、ハウスバンドがねじれていたりすると、着雪、積雪しやすいので、点検・補修を行いフィルムをしっかり張って着雪を未然に防止する。
・古いフィルムは雪が滑り落ちにくく、倒壊の要因になりうるので注意する。
・アーチパイプの腐蝕（さび）部分を補修する。
・筋交いの端が妻面、地面に固定されているか確認する。
・フックバンドやクロスタイ等の固定金具が外れていないか、又奥行き直管パイプの接合部分が外れていないか等確認し、修復しておく。
・融雪水の排水を促すため、排水路を整備しておく。
・パイプハウスの具体的な補強方法については、別添の「パイプハウスの雪害対策マニュアル」を参照すること。

２）降雪時・降雪後の対策

・倒壊の恐れのある施設には近づかない。
・見回りや雪下ろし等の作業は施設の倒壊に注意し、すべりにくい靴を履き、一人で行わず複数人で行う。
・暖房機が設置されている場合は暖房機を稼働し、内張りカーテンを開放して地熱の放射により可能な範囲で室温を高め、屋根雪の滑落を図る。
・無加温ハウスの場合は、施設の気密性を高め、内張りカーテンを開放して地熱の放射により室温を高め、屋根雪の滑落を図る。
・積雪後に融雪の目的でパイプハウス天井に散水すると、水を含んだ雪の重量が増大し倒壊の恐れがあるため行わない。
・人命最優先を旨とし、大雪や吹雪等の悪天候時には、作業は行わない。

参考：農林水産省 HP「施設園芸の台風、大雪等の被害防止と早期復旧対策」

URL: https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/saigaitaisaku.html